

中村俊定文庫
文庫 18
555



本書 甲斐振百韻の下巻 安永九年成
明和八年刊 平橋齋と銘す

かひこ百韻

百韻





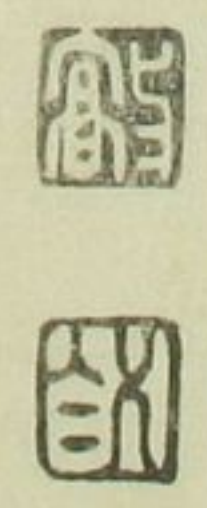
平橋菴記

豊後のおとよはしはあまの尾の河に
とよはしはあまの尾の河に
海に西流の河に
かゝるに
任時を
流に又
おとよはしの



世師のちしやけふ水のたふさくとも
 ありふるとおもひけふ今もいふ師を
 かくしとせよと山をめぐりてかたも
 いふと改むと筆て山をめぐりて頭
 仰ぐもあはれとていふも電もあはれと
 ありとせよと

平等橋畔宮殿水



白雲寺

東都

某く乃れそ温泉も湧きおぼふ
 秋立のまふあまのう沖籠 再探
 清澄く木之根のたけ乃雪 楚花
 今更く橋をくちりて南園
 とんと程措杖之屋や里津系 系系
 此よりくと世の理の勢と人 系系

ひもと

こほり

お仲のまも

おま

こ秋おろ

入るるるるん

ささみささ

お村ま茶斗



け路の川の隔りや大松川

柳京

なましはもとまろり柳の香

伶者

志のゆき節川まろり初松葉

子深

振りのまねも折るや小松城

楚之崎

相大や世の影も物凄

樹谷

まろりおのほる世の影やまの香

又今

あ月やまもまろり影

何象

伏せり、雲帆折る

意使

まら高や神心し羽織投路中

鬼守

いばりうと早にんく出り水空を 茶珠

海士路く子年回をやぶの月 東楊

系出くふをまへんを五月而 大葉

系控や吉村の淵のあがりこり 泥尾

香のりや海りりくくる士の歌 深矣

茶掃く志まへて成子に雲あり 奇甚

けー加のあのかく明中付る 五柳

を島沈子足付く淋ー初水 筆乙

海中一筆せし〜 系古き 横白

多々のやみす〜 堰の音 湘江

新巻るまや冷流の娘も控ら進ん 秀印

七娘よ入り〜あり女序に 翁矣

二葉う〜 翁か子白ふ系控り 乙介

初博のまをまゝやまの取 桐野子

結ぶる子世おはくはるまじ 卷二

沖の帆のりさのす〜 夕暮 子枝

道草の松田村の湯田

平市

霞のや 煙の今ぬ 婦のゆき

仙音

初雪や 木の葉の 庭の 忍ぶ 指

+

素雪

月 てるーの 松 澁之 門の 月

古柳

雪と 歌をぬ人 古らし 付る

里音

院中 ぬく 院や 雪を 井の 湯屋

秋洞

燈火や かつりくは 物うきり

み夢

子川の 舟の くりまはり 涼うき

意々

後の 雪よりささく 訓傳 乙きり

雪音

素ね へはや あり 湯屋 口

因里

事 雪りの 信子 依 古 湯 湯

冬冬

湯の 雪よりささく 湯屋 乙きり

波山

つ 湯も 雪り 湯をぬ はらうき

山音

湯 湯ふ 山音 湯ー 湯をぬ 湯

素雪

湯 湯つ 湯ふ 湯り 湯り 湯

東市

湯 湯訓 湯人 湯之 湯多 湯

ふ新

中へ入るる夏のあけりや初梅 餘草
影をいし中のあけり今秋の空 多き
雲のあけり梅の影中家の空 孤石
あけり店のあけりあけりあけりあけり 草高
あけりあけりあけりあけりあけり 石高
あけりあけりあけりあけりあけり 斗南
あけりあけりあけりあけりあけり 歩丈
あけりあけりあけりあけりあけり 如柳

初雪やあけりあけりあけりあけり 吉河
あけりあけりあけりあけりあけり 右左
あけりあけりあけりあけりあけり 乙河

あけりあけりあけりあけりあけり 藤乃
あけりあけりあけりあけりあけり 歩略
あけりあけりあけりあけりあけり 万作
あけりあけりあけりあけりあけり 右左
あけりあけりあけりあけりあけり 音田

あけり

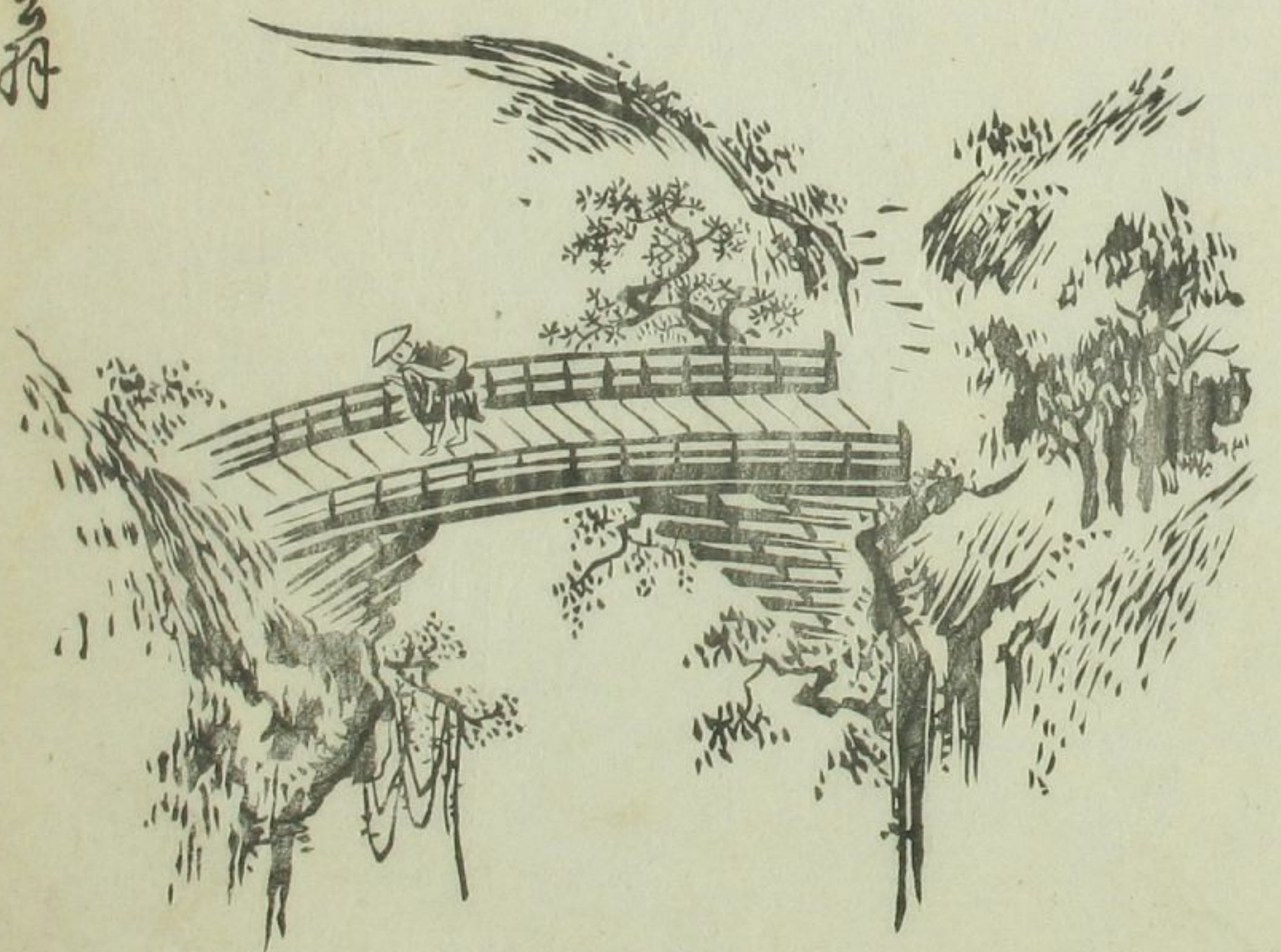
東の秋を予るは、持てる子秋
 橋下
 東戸忌中切く投出乃ち大根
 米波

麻痺中、山、客の楳の早月秋
 雲峰
 物たる中、清く、能く、汝の、
 桑文

五心と、り、孫、く、は、女、ヤ、女、序、也
 多少庵
 秋風

乃、暮、く、一、里、の、尺、く、り、き、の、月
 後藤庵
 芭行
 誠、之、く、か、回、の、楳、一、好、事、也
 如亭庵
 尺五

うの、持、持、と
 張、の、の、く
 山、家、乃
 水、了
 乃、弱、の
 十、五、了
 ち、く、さ、む
 十、七、り、の、水
 七、を、成、る、舟



たわしを洗うもろありらん
き所り神の柱とあそ

檜櫓

うらうら月のおふ檜中作らるる
の姿

陰山

友のまゝもやうの陰相

高門

物せん海軍子権をわき重門

日一ひのあかり

内人のせうきこ

けちりおとふんくま雪の舟
岸月

又心は里のやまの枝まや

侍りしやはなれもとのけり

けしき

月の影をふさぐもろを陰乃山
鼓吹

早稲のちるとさくやま玉の破侍い

意の種やあも東もわき重門

白鳥子混雑

那内舟詩

稚子まゝくそるそのかや種せり
 たふしおのやもたをたふぬた
 々おまゝー里い海とていそあ
 稚子帰くくさい葉のふ白ひり
 海士のふも砂子陰と年月足り
 川二隈中子まゝく柳うさ
 飲博のまゝく種ー文玄
 伊及と足出ハ豊の量り那

浮月
 水明
 西夕
 長江
 子桂
 水明
 磯山
 茂山

出りりややう返りるるの梅
 峰の松纏くそるり葉そり
 最優く返りくおま柳うさ
 おの香そるり葉そり柳の香
 名月や竿く種と葉液く香

露泊
 庭湖
 水泉
 柳柯
 一人
 一釣

川。

月のお子まゝくそるの縁尻
 々仙や芭子陰ひのむおり
 稚子帰くくまのくまのく

調湖
 斗小
 柳化

高き花く積も朽木子陰生りり
石也
抱く水人ハ稀之 返り也
下調

小派

まゝ本くよ粧む陰あり初時面
如也
是ううう底のふ入やむ其のそ
一琴
望、海し〜心〜き破の卯
素素
折く〜ま〜入るや存重て
素麗
秋まや花さやのふ鳥の歌
玄紫
忘れまよふ葉ハま〜りと豊か
傍山

山〜の村子淋〜麻の夢
右舟

谷村

川舟と星ハ〜中か〜小袖
玄柳
名月や葉花よふあ〜う波
止る
詠路ハ山子破る 石紫うた
石歩
ふる人もま〜ま〜ま〜ふの葉
白葉
魂あ〜おと〜るや麻の夢
玄意
京一向く月當り淋〜言終後
柳止
名月や明と争ふ 澄の夢
茶賀

けしきくさくさも晴りりあふの月 女 子谷

うねくの藤もさよあけ小ね湯 梁父

まよと晴ふ床尺舟より 継月 初指 信翠

まよ梅や何くくうぬものさ 中ふ山 栲老

ふ木のまよも破く扇の中 琵琶法師 古月戸 雪る

垣子 垂子 流も 葉とくさくのさ 川茂 葉翠

澄りの差 破りりり 龍子の夢 きほ 素石

望るまよ 清もぬあじしやけいのも きほ 如柳

高き河や流の垣了 笑ひ今 流布

四冲会

新霞くまよハ 夢く 夢小 竹夢

まよぬく 秋子 ぶく かい 秋文

麻痺や 表も 流さる 秋文 秋文

まよか子 云月や かの川子 東曉

まよつ子 焚火ハ 何そ 夕時 時栲

栲櫛

高けり 町ハ 栲子 子 證きりり 葉牛

松のふもあまの心くし好の月 ふん 東谷

写し松の葉揮ひまの柳の心 ま 了休

浦のやう埃よけく及の縁 若く係 洗平

ふの音初々谷や梅也 初 初

初里一抱く影り初松矣 建分 巴多

まをまはあまひや雪乃ふま 初 井茂

山吹中深のうま交る小笹系 初 白里

換換子出れと隣とまをま件 初 孤峰

寄抱く分る谷のあまの心 信州 仙草

川せま中流まの風ふまの代 初 桐羽

箱馬やうまのまの山 初 蓮洲

人まの流あまのひりり柿のふ 初 夢可

蹴りく橋の音か 初 杜音

ぬくくまのまの麻の掃く石屋紫 初 茶智

交分

脊中まのまの河のま大権 初 柳凡

初月十日...波紋に波引松

吳島

櫻中...月立...年乃...

枝舟

名月...輝の輝...指

辛洛

本指...死...時

梅年

山

今建...子...中...時

花村

...子...中...指

岩屋

...子...中...指

泥草

...子...中...指

宗老

...子...中...指

柳里

...子...中...指

多松

...子...中...指

山管

八王子

加添...時...影中...也

一海

...子...中...指

町平

...子...中...指

徐色

...子...中...指

芝津

...子...中...指

中後

浮き世指し地むらじも

扇雪

降りあき海は押さふ

好美

浪中海はうらや

喜二

高う海の中

了事

投げし書物涼し

そ外

何のくとも

半橋

嘆あり世の

石斗

吹く

白

静ぬ

初晴

おの浦賀

まじく

陳

年暮の

江

一本

花

夕

瓶

初

鳥

鶯

波

山

釣

ちんちん、かひくはよお向ひ
ちんちん、かひくはよお向ひ

舟泊久良原

出くは出く、高りり市女並
よさの波の音と波重 鯉泊 翁乃
輝の音 ぬく ちんちん
お糸をりち初 初や世の音
高の音よめ せや ちんちん
初信や月とよよぬむ波流り
静書 岷多

機も出く、ちんちん 糸流り 糸の月
麻衣ー ちんちん 糸流り 女
音の音 ぬく ちんちん 糸流り
音の音や人のぬく ちんちん 門の口
松居

ま津

名月やちんちん 糸流り 糸の月
ま津 ちんちん 糸流り
音の音 ぬく ちんちん 糸流り
音の音 ぬく ちんちん 糸流り
音の音 ぬく ちんちん 糸流り
音の音 ぬく ちんちん 糸流り

舟泊

静書

川ありて 萩をくさるる 柳の心 上宅 鳥輪
尾羽 尾羽 風を

文科竹取

いとせよとせよよ かしこし かしこし
月入んとは秋さるる 萩の三つ葉
乃きくらの萩さるる 萩の三つ葉
うさるるの萩 萩本とや 萩本
やさるるの萩 萩本とや 萩本
萩本とや 萩本とや 萩本

月入るとは秋さるる 萩の三つ葉
萩本とや 萩本とや 萩本
萩本とや 萩本とや 萩本

東洋

萩の三つ葉の萩の三つ葉の萩の三つ葉 萩の三つ葉

東洋

萩の三つ葉の萩の三つ葉の萩の三つ葉
萩の三つ葉の萩の三つ葉の萩の三つ葉
萩の三つ葉の萩の三つ葉の萩の三つ葉
萩の三つ葉の萩の三つ葉の萩の三つ葉

好む子孫をく被地何有後世無着く
之を以て未嘗謂也山志云有甲不
楊梅桃李一何に似たりや

山に雪を積りてさうりて文云

と書一此中相伝るより指し語下
かりは乃山志の云ふ事其の月
備手大坂子志りて其に及去月下旬
みる出系りて其に務る非る死す
清中のようて世に下し何と云ふ毎午

世に子孫源りて

一 世に子孫人志る今古板物りて
かゝる術事也一 今便に云ふ事
古に於て事りて

一 此の山志に務りて其の事
を以て其の事りて中務りて

伊集

伊集りて其の事りて其の事りて

伊集りて其の事りて

ゑるや梅子琴弾きもあ

宇治扇を

あふ果の名丁と折せの梅の實

一谷

さうみく 涼おほしし 暑さうり

経波を梅

舟楫の舟のかりひも経波を

一僕めまきさるや 舟おしとト空よる

とあるト 葉も地じかき 経波の中

西田のふり

舟向を 船もせし 九中

ふし

又と所小果のきあき

被の中 被のさる 折戸

一 折戸もあふ 舟も中 舟又あふ

舟もあふり 舟もあふり

女

舟もあふり 舟もあふり

梅

舟もあふり 舟もあふり

舟もあふり 舟もあふり

後をりても 船をりてり 舟の町 之をま 居る
此出—と云て 是れり 舟

五月六日

瓦西人



設水初家

四妻子 玉子

甲 堀友玉

世子 甚る 遊る 舟の 舟— 舟 葉橋

玉柳

玉原

都人 舟— 舟 せん 川 板の 舟

湘舟

名月 や 望 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

桂舟

若川の 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟— 舟—

く 鶴く 檜 卒 月 月
初 夕 中 鶴 を 喜 ぶ 鳥 の 庭
い ち 百 ち り 多 少 へ ち 多 少 へ
幾 千 十 百 の 名 世 同 不 喜 ぶ 喜 ぶ
松 千 子 也 乃 者 一 々 松 千
ま へ 梅 ぬ 多 少 へ ち 多 少 へ
人 っ ち ち ち ち の ち ち ち ち ち ち ち ち
塔 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
稲 千 子 也 乃 者 一 々 松 千
乃 者 一 々 松 千 子 也 乃 者 一 々 松 千

小 山 千 子 也 乃 者 一 々 松 千
船 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
鳥 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

さ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
松 千 子 也 乃 者 一 々 松 千
信 正 の 船 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
浮 橋 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
抗 火 の 船 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
鹿 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

雑 沢

松 千 子 也 乃 者 一 々 松 千
白 扇
中 古
古 川
乙 鹿
楚 云

平河

終冊子家書あり星々香 金牙

のり飾り星の夕りや 九中 嘉嶽

夢や禱もまゝる 竹とさくら 長津 心井

むらまゝいゝくまをひらり 秋の露 女 柳楚

うたはちかゝるさうらゝまゝるぬ 小京 友路

相見く透るる子 秋の夕 小舟 子孫

夕まや 蓮の葉もさき 警例

人のまぬ 谷のり子 白ふふまゝる 白雪

白玉透流の抄

むの香 相い大陣の 後の月 春子 菜亭

山吹中 歌をうたふ 夕の透るる 荊津 渭川

月夜く 流る 秋中 香るる 不 並崎 井路

涼しきや 子まゝるぬ 子信 望より 杜洲

年のわり 山一 如く 帰ける 魂 和香

八月の 子まゝる 城や 河を 渡る 左京塚 七五羊

お月鞠を流流し〜り 嬉柳 今流流 保勇

〜り 嬉子 嬉り〜 流言 流世 嬉り 井利 流言石

遊子の二遊子 乃中 喜あ 乃中 喜色流 引嬉

火の風子 流の流り 乃中 乃中 流中糸 首牙

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 豊文

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 柳湖

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 了流

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 井畝

涼し〜や 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 湖舟

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 左柳

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 喜喜

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 投揺

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中

乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 乃中 補乙

ささりくと月より霞く 枯木の音 字江

月子まぬ 佇をきや 紙子の音より 少由 美勝

木の苗アノ音く ありも 涼き声 枯枝

耳流ふ人にも 志く 後 一ろき 少由 河内

小枝よりく 又小枝 匠匠 紙の音 美心

争てくく 舟を 扱ふ 柳の音 符 孝容

橋さくく 寺を 居る 小枝の音 河内 美心

あせもくく 中上も 荒く 寺の音 右林

橋流や おもく 寺の音 人小音 美心

るのりや 舟子よ ともわく 寺の音 和秀

於てく 舟の音より 舟の音 美心 今由 後撰

白壁を 眺く 思 舟の音 舟人 里心

中子や 舟の音より 舟の音 乙丑 中和

河原崎や 舟の音より 舟の音 舟一

舟の音より 舟の音より 舟の音 舟一

舟の音より 舟の音より 舟の音 舟一

三州と声の伝へ浦らとり
波原の人と後方や 樹の玉 白心 五遊

坂田

市代やあとりも津よりのひろ 并栢

夏うと朝よ夕霞の音輝りあふ 常几

心月のまじりせーまぬ接木も 赤源

はまをまの回を後う中 初まうう 糸泉

終るせらけ 中まらうらあふ白ひりり 文川

中伸を せもせうり 初はくを 音箱

山さハせうりく のさうう せあ 栢葉

思今う中 楳のむ子 波の色 乙四 均戸

楳後も 杖も 楳あり 杜より 集系 眉山

卯のふや 暮らも 暮らぬ 傍尔 松 西山下 涉江

甲府

竹房うらまの 名と 同ふ 桑摘り 五木

柳うらまをうり 戸をくま 鶺鴒 和長

碓氷の 暮らめ 新中 初砂 令波

旅 齋の 借の いむ 清く 糸 糸千

比 里の 世の 名 清く 糸 糸和

多 汲よ 十 糸の 脚の 世 糸菜

多 糸の 糸の 人 糸の 糸 糸古

糸 糸の 糸の 糸の 糸 糸百

糸のよそありも糸結望も糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 川亭

糸のよそありも糸結望も糸糸 川亭

糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 麻音

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 四糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

糸のよそありも糸結望も糸糸 糸糸

張良うつ世子ハ世軍ありけ

ちうぬ 予ハ海女のそうりふ

かくるるもの

そと子筆筆吹く竹せりり 長谷

小波石入江せ越く竹えりり 江音

建つて家子 誰か乙きうち 紫原

家子 ありもきく 踊る 伝言

穀々の大粒も誰か 玉糸 乙海

習いぬと小信の唄や田植付 一峰

り秋や 春ハ原入り 砂子入 古き

祖孫忌

とを成忌や 瓢子 物の入と 酒作

初月や 夕夜よりさもおれりり 和戸 津揚

曲も せき 似く 沼飲 田植水 呉心

木倉の 能 隠 生 多 多 紫 陰 凌波

千鳥の 紫ハ ます 和く 子 枯の色 葉音

つワ 家あり け け 居 必 中 之 穀

昔の月入くゆるささくさくさく

山吹やまは陰せかく厚信以

根の栴負子紙幅の白ひりり

有人

之耕

名月や甚吟ゆきふまの上

川田

古淡

旅人の草の葉子汲む清き水

清香

姫瓜や翠年のまわくくききき

除来

若川のときく石付より海りき

若山

海舟の宿り泊りや清き水

世々

せりや年のおくせもも向物

多然

草摺や外枝の宿のまわりと

長斧

杉虫や赤の掃除もあもあけ

耳長

あかうくふと海の清ぬれ水が

片糸

人志ぬり志の及や中あ時

又露

うはくくさ中子露垂牡丹水

女

杜栄

霜露や及く三海と橋葉素

結彼

一糸の習志はるほしの写る水

翠穂

逐々のたせふく吹たてり水

有人

秋止

草花よりハ 神 陸の山 夕 子家

栄分より 子の横ふ 世より 乙未 辛未

泊世十二よりハ 早の 運の舟 仙舟

浮世中人の 通のぬ 指乃下 夜舟

為 天志の 夕も 中むや 女舟也 東湖

早の 夕や 芽ふす 世の 草葉 記云

ころころ 世た 都の 夕や 言 指 糸 指 糸

草の 人の 及 夕 ぬ 浮世 落 夕 夕 舟

る 草 夕 仲 夕 夕 人 夕 指 夕 必 母 必

松魂辞

ちと 夕 夕 夕 秋の 初也 夕 夕 夕

魂 糸の 初也 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕

夕 夕

らゆら〜今ハ集ら〜才と筆あり
上ハ世のあ〜ハ〜あう〜予ヤ爲今
月〜半〜父母子共〜里共〜の
人〜〜世族子共〜あ〜あ〜
少〜産秘里〜望〜方〜了〜代々
際伯と共〜中〜何〜乃
〜一〜今代々の名共〜録〜
うつら〜名〜志〜子
あ〜た〜今〜の〜と〜う〜け〜と

さ〜り〜大〜と〜う〜け〜を〜併〜し〜

世概の候を共〜侍。

混招り〜名〜あ〜や〜け〜也〜層 侍就

山幸〜〜平〜〜一〜麻の〜 加人 煮茶

臨〜〜〜〜あ〜れ〜も〜也 拾録 白峰 祇元

セ〜子〜定〜ひの〜舟の〜つ〜紫の〜形 山人

あ〜る〜も〜も〜子〜際〜あ〜と〜んと〜横〜才 君海

人〜志〜ぬ〜共〜洋〜き〜一〜言の〜也 裕之

末抄や舟の力もつちの舟

了修

舟の中の時を待つるは梅木の香

素次

小梅のまゝのふき草中 結月

素次

不松のもまゝのぬるは 岸草

里三

板橋の脂のふく出づるまゝの

鹽次

大京の里を凍—— 松の舟

八代

洞次

月に出づる月子居るやふの山

文温

鶴うらおのぬるりりまゝの

宣和

因雨子露のんか—— 茶 管

丁初

草指や色はゆき 袂まき

舟橋

岸草や松のふきぬる月夜

湖山

うつさくおの山草や 雪の月

吉布

岸草は 梅のうらるる山草の舟

松舟

折くは 帆のあつらゝるる世の舟

代次

夕まき 岸草の舟の舟の舟

書瓜

船——まゝの舟の舟の舟

書夕

うはつりと舟の舟の舟

如舟

枝村も相違ふ故也の卯
るき

雪の枝まへ粉けあり辛本らり
琪下

雪のけの星影まへおまへり
三屯

雪まへり星あけりしき干葉は
清子

鶯路やふ子まへりしきまへり
露致

雪あへぬまへりしきの白ひまへり
文檜

雪まへりしきの雪あへりしき
危舟

出典

雪 籠中 沈く 淋しきまへの
柳園

初 汐や 居あへり 捨ふまへり
永秋

涼しきや 扇の上は 招きまへり
藤心

芭蕉地あ 埃拂ふや 吉乃秋
淡十

中庭に 名も 名 濃し 藉の玉
清扇

夕月や 安らざる 何そもの
別窓

洲の 松子まへり 神まへり 雪解り
翠簾

富士平

浄心坊

赤花の 波は 扇は 烟代也
梅香

第一出のまゝのまゝ 柳 初付 五 言

葉の音のまゝ 柳 五 牡丹 柳 四

流のぬる川も名なきに 柳 五

経舞の音く枝 柳 五 柳 五

そりや 五 門とるまゝ 五 意の心 五 東 五

柳 五 柳 五 柳 五 柳 五 柳 五

鳥の音や 五 多まこの相 柳 五 五 五

海や地を 五 五 五 五 五 五 五

ちりちりの音と 五 五 五 五 五 五

まのゆや 五 五 五 五 五 五 五

心も 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

第一出のまゝのまゝ 柳 初付 五 言

葉の音のまゝ 柳 五 牡丹 柳 四

流のぬる川も名なきに 柳 五

経舞の音く枝 柳 五 柳 五

そりや 五 門とるまゝ 五 意の心 五 東 五

柳 五 柳 五 柳 五 柳 五 柳 五

鳥の音や 五 多まこの相 柳 五 五 五

海や地を 五 五 五 五 五 五 五

ちりちりの音と 五 五 五 五 五 五

まのゆや 五 五 五 五 五 五 五

心も 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

心 五 五 五 五 五 五 五

うきこころの 望し月夜も月

紋栞

子枝の玉やりしうりなきの秋

肩書

燈火中世のこゝろをかきさけり

一洞

井よりしきゆき子員一麻の夢

冬更

川吉の楳しきゆや夜の月

氷更

麻のくさきもあかりを杜る

言翁

輝ふくや物ねりき井の玉

沈文

誰をまきし移ちしわあそぶの巻

葉巻

わらわのころ 幼くく 杉梅し 茶喰

李玄

言の精や 夢見くもよき 友翁

赤城

ゆきをたて 耳子い 産し 麻の夢

深谷

言のの 語の 出の 夢の 言

七塔

おろろ 一き 旅屋の 夢の 大旗

赤家

おろろ けく 一き 旅屋の 夢の 大旗

弄矣

、 田家子 抄

麻のくや 女の 夢の 夢の 夢

可之

傘と 子く 夢の 夢の 夢

雪河

旅屋の

夢の

水をたてておぼろげに照らす

松磯

清きや川原のありしは蕭の夢

夢

桂翁

吹る風のふゆくそ水室の山

松磯

古き子よあるもや昔乃不

通

あふくもあもあましく付あふ

古

初夜や舟の分行小松系

夜舟

心之

おぼろげに照らす

松磯

来夫

十の五、清きく已ら、案ん小

夢

乙牙

そののせむし付あふ初夜

松

山越中志よりゆのしきゆり也

石

夕之節の若侍れくとつまより

馬

足跡をいあふそそ之乃心

友人

琴

片所子訪ひてきたなや月

乙之

門子屋をせせ出さるや門涼

八枝

晴江

きくゆふあとかきりり

柳

舟とくしや、西よる之麻のちり 以

舟のちり子船のちり 社

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

舟のちり 舟

定下

完原

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

帆柱と誠まきよほくおは
か度 晴白

清く居たのこまよ門涼
女 珍言

月影ハ引列るく重き意
玉屑 珍言

虎皇子は母の人や柔の河
吉嫁

柔頼の付子抄中 居乃多
子英

梅咲く下りまのまきりり
松中 五柳

柔のまや 歴加子目と後
山梨 素高

烟霧の撫子叫ぶ中まきりり
法月 井谷

草指やふ息後まのむらきき
曲付

博東

松尾の娘まきりり
紫河

まきりり松尾まきりり
女 素高

松尾まきりり
胡堂

片枝おねー松のこま抄
東部

まきりり
京都 素高

ゆかりや柳まきりり
京都 素高

東都

少々不寐の生きたヤキヤキ
ふ急ぎ早急の縁と驚く人おの香
吉原の戸子突とくねー柳の香
中をきくそ兼ハむア兼よりり
柳の香
御方より遠なるのさくらや古塔の香
漱々

みゆき子むす深淵

雪のふりこむる春をさすつるあはれ
おろしに葉はくらくらと舞りしる
ゆれゆくまじくまじりゆるとや人も
せむすらのこころをあらよまをうり
月日のうけりしをりまはる後の
影のふれぬはさるくハおろし
かゆくはあはれ

そはなほあはれと古磨

みゆき子むす 古磨 古磨

四ノ序

けこそよまのこい 禅家の縁も
うら画家の屏斗子室珠の
子像の、あま及まきね

半印やのこみかうも丸と海
桐乃くくあくるまき 昔清
あゝ人のあさせくまの月あけ
縁はう浦さひーさよ夕あき

青浦抱山宇口琴

東都書肆

大町三丁目

西村源六梓行

